

令和3年度病害虫発生予察情報 予報第13号（2月）

令和4年2月15日
発表：福島県病害虫防除所

1 野菜・花き

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった（±）。	多発すると防除が困難になるので、発病初期から防除を実施する。
	灰色かび病	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった（±）。	過湿にならないよう換気を行う。 発病果や罹病した果梗、老化葉などはハウス内に放置せず、適切に処分する。
	アブラムシ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった（±）。	発生状況をよく確認し、低密度時から防除を実施する。
	ハダニ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった（±）。	発生状況をよく確認し、低密度時から防除を徹底する。 抵抗性の発達が懸念されるので、殺ダニ剤の選択には注意する（令和3年10月12日付け防除情報参照）。 カブリダニ類等天敵製剤を放飼している場合は、天敵に影響の小さい薬剤を選択する。
	コナジラミ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった（±）。	低密度時から防除を実施する。
	アザミウマ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった（±）。	発生が多くなると果実被害が生じるので、低密度時から防除を実施する。

注) 予報の根拠の中で（+）は多発要因、（-）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。